

2012年5月21日から25日まで、中国・武漢の水生物研究所の李仁輝教授のお招きで雲南省を訪問し、大理市にあるアーハイ湖と昆明市にあるディアンチ湖を調査しました。以下は、その際の様子です。李先生、大変お世話になりました。ありがとうございました。



まず、昆明について最初にとった食事（夕食）は、街中の普通の飲食店（でも、この方が結構楽しいときが多かったりして、、、）。李先生と一緒に、まずは白酒（上右）を飲みながらつまみ（複数種類あった。上左は豚の耳だったか内臓だったかの辛い味付けのもの、下左は筍と山菜の辛い味付けのもの。いずれも、美味！）を食べ、雲南省名物のメイセン（お米で作った麺）を食べました。メイセンは、とてもあっさりしており、味はチキンスープで飲みやすく、大変美味しかった。

次の日の朝早いフライトで大理市へ移動。大理市では、Erhai Lake Research Centerのウェイ先生がお出迎え。1時間ほどのディスカッションの後、所内見学しました。建物移動中とのことで、まだ機器は多くそろっていませんでしたが、水質分析やプランクトン検鏡・計数等の必要最低限のことはすぐにでもできる状態でした。そして、昼食。ウェイ先生お気に入りの店に行きました。



魚料理の店でしたが、上の左は魚の出汁に胡椒の辛味が効いたもの、右は唐辛子で辛くしたもので、

いずれも大変美味しかった。また、「豚の刺身」なるもの（ああ、写真無しだ、、、すいません）も食べましたが、サッとだけは火が通してあるようでした。なんでも、大理に土着のペー族独特の料理法だそうで、これも美味しかった。

その日の午後は、アーハイ湖の西側を調査。その後、大理市の観光市街を視察しました。山手にはケーブルカー（めちゃくちゃ、長い！）が整備され、山からの眺望はすばらしいものです（左）。また、山手からアーハイ湖へ行く途中にある市街地は、そのものが観光地（右）で、見るところどこも昔のペー族の生活様式を残しながらの風景であり、大変興味深かった。



その日の夕食は、火鍋です。我々が入ったのは、これもウェイ先生のお気に入り、ムスリムの人々が経営する火鍋屋。私は、火鍋は初めてでしたが、これが辛いなのなの！下の写真ですが、見るからに辛そうでしょ！



最初は、写真左のようなスープの中に肉と少量の野菜が入っているだけなのですが、ここに後から後からドサドサと野菜やら餅やらを足していきます（写真右）。で、最終的にはものすごい量を食べることになります。これは、美味しいのですが、量がすごい！李先生曰く、「ウェイ先生は、来るといつも食べ食べと、おなか一杯になっちゃうね、、、、」。



もちろん、ビールも白酒も飲みました（左は、ビール。良く冷えている！）。また、中国の人は、豆の炒め物をよく食べます。写真右は、ピーナツの炒め物。

次の日、アーハイ湖の西側を調査しました。まずは、、、朝飯です。下は、朝ご飯に食べた水餃子（中国の朝飯メニューには、水餃子があります）です。写真右の薬味を入れて食べます。



で、アーハイ湖に向かい、まずは水質改善のための水生植物公園です。ここでは、たくさんの水生植物を植栽して、それによって湖水に導入される窒素リンを湖水導入前に水生植物に吸収させていました。そこそこ成果が上がっているそうです。



で、記念写真。左の写真の左がウェイ先生、右の写真の左が李先生です。李先生と撮った写真は、



水生植物公園ではなく、別に立ち寄った観光地です。その観光地では、アオコが確認できたので、アオコサンプルを取りました。



その日の昼食は、アーハイ湖沿岸にあるお店。かつては、李先生とウェイ先生と一緒にプロジェクトを進めていた時の定宿だそうです。その店の2階はラボになっています。食べたのは、写真左の料理。このほかにも、アーハイ湖のエビの炒め物とかもありましたが、どれも素晴らしく美味しかったです。さらに移動する途中、中国の田植風景に出会いました。たくさんの人が総出で稲を植えていました。機械は使わないそうです。

次に、観光港に入り、アオコ採取。アーハイ湖には、琵琶湖のビアンカを思わせる立派な観光船が



ありました（写真左）。

その日の夕食は、ペー族の伝統料理の店です。たくさんの種類の料理をいただきましたが、中でも特に印象に残ったものを以下に示しますと、まずはバラの花びらの炒め物（上の左）、鶏の臓物のスープ（上の中央）、ゴキブリのから揚げ（上の右と下の左）、魚のスープ（下の中央）、そしてドクダミの根の炒め物（下の右）です。



バラの花びら炒めは、上品で優雅な味。鶏のスープは、とにかく絶品！ゴキブリは、食用となる洋食ゴキブリで、北京では高級食材であり、一緒に食事したウェイ先生の部下（若い人ばかり！）は美味しそうにガッツいて食べていました。魚のスープは美味しかったが、ドクダミの根の炒め物だけは私は食べることはできませんでした、、、、。私は、ドクダミの匂いに弱いのです、、、、。

さて、次の日に移動して、今度はディアンチ湖に行きました。ここは、アオコがすごかった！広い湖ですが、広範囲に密度の濃いアオコがびっしりと！ディアンチ湖の北の部分には橋が架かっており、そこではオイルフェンスのようなものでアオコ除けがしてあり、そこから北側は水生植物による水質改善がなされていますが、その端から南側は全てアオコアオコアオコ。



これは、大変だ、、、、とと思いました。昆明市は人口 500 万人。この巨大都市からの排水が、アオコ

の元です。

ところで、ちなみに、ディアンチ湖のアオコを高所から撮るべくケーブルカーで観光地の山に登った際、なんと、珍しいカブトムシ(?)をゲットしました!これは、私の生涯初の外国カブトムシです!もううれしくて、他の観光客(中国人ばかり!)にかまわず、そいつを手にとって少し広い場所に行き、「レンファイ、写真撮って!すぐに、ピント、気を付けて!ちゃんと撮って!」と、もう必死でした。周りの中国人は、「この外国人、何をそんなに喜んでいるのか?虫がそんなに、楽しいか?」といった風で、珍しそうに私たち一行を眺めていました。後で日本で調べてみると、ワリックツノハナムグリという種だそうで、台湾や中国南部とかに生息しているそうです。日本のハナムグリよりは3周りほど大きく、でも日本のカブトムシよりは一回りかもう少し小さい。でも、すごい攻撃的で、私を両足で威嚇して、自分をでかく見せることに必死なようでした。



私はカブトムシ・クワガタムシが大好きなのです。

最後に、中国科学院の研究所・ステーションがディアンチ湖にもあり、そこを訪問しました。これは、李先生の上司(?), Song 先生がリーダーとなっているディアンチ湖のプロジェクトがあり、ドクターの大学院生がそのステーションに3年間張り付いて研究しています。決して街中ではなく、砂埃の多いところでしたが、若い研究者が必死にかつ地道にデータを積み重ねている様子が良くわかりました。



この出張では、中国の奥深さ、自然の偉大さ、それを解明しようとする人間の努力、また人間によって汚されてしまった自然を回復させようとする人間の努力を、いくつも見せてもらいました。李先生、ありがとう！ウェイ先生、お世話になりました！

次は、6月中旬の韓国出張です。これをアップするには、ちと時間がかかる、、、、